

まちづくり環境委員会

令和5年7月14日

まちづくり推進部 資料9番

所管 都市計画課

第179回大田区都市計画審議会の報告について

1 都市計画審議会の概要

(1) 日時

令和5年7月3日(月) 14:00～15:10

(2) 開催場所

第三・第四委員会室

2 議題案件

諮問案件なし

3 報告案件

報告1 大田区都市計画マスタープラン進行管理指標(案)について

報告2 蒲田駅周辺のまちづくりについて(蒲田駅周辺地区基盤整備方針)

4 添付資料

添付資料1 報告1 関連資料

添付資料2 報告2 関連資料

2040年代の将来都市像の実現に向けて (大田区都市計画マスタープランの進行管理)

1 大田区都市計画マスタープランの役割・体系

都市計画マスタープランとは、都市計画法第18条の2で定める区の都市計画に関する基本的な方針であり、大田区基本構想に即して、中長期的な視点で将来都市像の実現に向けた道筋を示す都市づくり分野のガイドラインです。
目標年次は2040年代としています。

2 将来都市像と都市づくりのテーマ

都市計画マスタープランでは、「暮らす・働く・訪れる」大田区らしい多彩な景色が人々を惹きつけるという将来都市像を設定しています。この将来都市像の実現には、生活の中の人々の活動（ソフト施策）とそれを支える都市基盤整備などの都市計画と深く関わる取組（ハード施策）が一体となった展開が必要です。
そこでソフト施策とハード施策を織り混ぜた4つのテーマを設定しています。各テーマには都市づくりの課題を解決するための重点項目として10の視点を整理しております。

〈都市づくりのテーマと視点〉

 <p>テーマA にぎわいと交流を生む国際都市の発展</p> <p>視点 1 持続的成長を支える魅力ある拠点 2 都市の発展を牽引する産業環境 3 来街者も円滑に移動できる交通環境</p>	 <p>テーマB 地域力を育む暮らしやすい場の提供</p> <p>視点 4 多様なライフスタイルに対応できる良好な住環境 5 様々な移動手段を選択できる地域交通</p>	 <p>テーマC 安全・安心な生活の実現</p> <p>視点 6 強靱で回復しやすい減災都市 7 様々な活動に支えられた安全・安心な都市 8 オープンスペースを活かした防災都市</p>	 <p>テーマD 地球にやさしい環境の創出</p> <p>視点 9 水と緑のネットワークによる安らぎのある都市 10 持続可能な社会の基盤となる脱炭素化が進む都市</p>
--	---	---	---

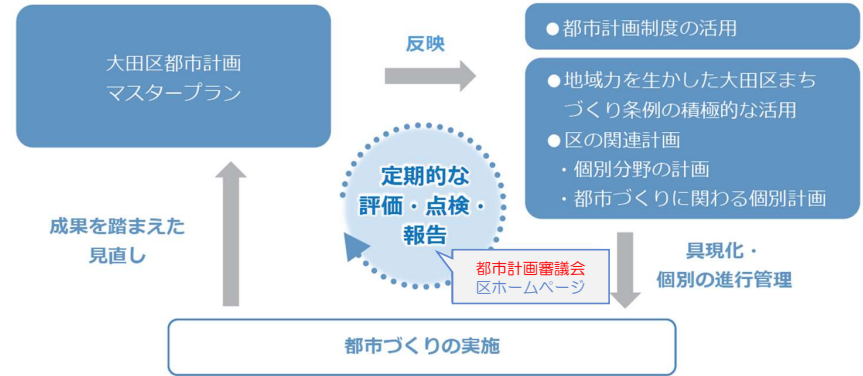
3 進行管理の考え方

進行管理にあたっては、「都市づくりのテーマ」で掲げる1～10の視点ごとに、都市づくりの進捗状況を見える化する「進行管理指標」を設定します。
進行管理指標は、統計データや区民アンケート、関連計画の指標などを活用し、適宜目標値等の更新を図ることで、マスタープランの実現に努めます。
進行管理指標は、「政策指標」「事業実績」の2点で整理を行います。
また、同時に「都市づくりのテーマ」の満足度評価も行っています。

政策指標	= 都市づくりの進捗状況を見える化する指標
事業実績	= 政策指標の向上に資する代表的な取組

4 計画の進行管理・見直し

都市計画マスタープランの目標年次は概ね20年後と長期に渡ることから、将来都市像の実現に向け適切な進行管理を行うとともに、基本計画などの策定・改定の機会や進行管理と連動し、必要に応じて柔軟に見直しを行います。



進行管理指標の見かた

視点ごとの評価・点検	<p>視点 1 持続的成長を支える魅力ある拠点</p> <p>指標名 区内宿泊施設の宿泊者数 〈引用計画〉 大田区観光振興プラン2019-2023 第2期大田区まち・ひと・しごと創生総合戦略</p> <p>現状値 105万人/年 (令和3(2021)年度)</p> <p>目標値 175万人/年 (令和8(2026)年度)</p> <p>目標値について: 新型コロナウイルス感染症の拡大前である令和元(2019)年度宿泊者数約171万人と同水準の利用者数を見込んだ目標 目標値と目標値の設定根拠</p> <p>▲政策指標は、目標年次である2040年代を目指すものですが、直近のまちづくりの進捗を示すため関連計画などで定めた短期的な目標を採用しました。</p>
	<p>事業実績 大田区観光情報センター利用者数</p> <p>35,374人/年 (令和3(2021)年度)</p> <p>70,000人/年 (令和8(2026)年度)</p> <p>▲事業実績は、政策指標の実現に向けた区の取組を示します。目標値を掲げている取組については目標値も併せて掲載しております。</p>
テーマの満足度と総括	<p>テーマAの満足度 (令和4年度区の施策検証等に向けた大田区区民意識調査)</p> <p>Q. 大田区では、活力、国際性ある都市づくりが進んでいると思いますか? 「そう思う」「ややそう思う」と答えた区民の割合</p> <p>34.4%</p>
	<p>総括 (記載イメージ)</p> <p>政策指標の現状値は、区内宿泊施設の宿泊者数、主要駅における年間乗車数などにおいて、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、目標を下回るものがあります。 一方で、事業実績では、新空港線の整備主体の設立や大森駅西口広場の計画決定など、着実に事業が進展しています。</p>



A にぎわいと 交流を生む 国際都市の発展

めざす姿

大田区らしい「暮らす、働く、訪れる」などさまざまな活動が展開され、人々の自由自在な移動と交流が確保されるなど、国際都市としてふさわしいにぎわいや機能を備えた拠点づくり、大田区の産業を世界に発信する拠点づくりが進んでいます。

視点

1

持続的成長を支える魅力ある拠点

(精査中)

現状値

目標値

区内宿泊施設の宿泊者数

<引用計画> 大田区観光振興プラン2019-2023
第2期大田区まち・ひと・しごと創生総合戦略

周辺飲食店などに広く経済効果の波及を目指す。

105万人/年
(令和3(2021)年度)

175万人/年
(令和8(2026)年度)

目標値について：新型コロナウイルス感染症の拡大前である令和元(2019)年度宿泊数約171万人と同水準の利用者数を見込んだ目標

国際交流・多文化共生が進んだ まちだと感じている区民の割合

<引用計画> 第2期大田区まち・ひと・しごと創生総合戦略

日本人、外国人を意識せず、地域の中で安心かつ快適に暮らせるまちの進展を目指す。

24.2%
(令和3(2021)年度)

30%
(令和8(2026)年度)

目標値について：平成30(2018)年度と令和3(2021)年度の世論調査から、3年間で約4%減少している状況の回復に向け、1年で1%増を目指して設定した目標

大田区観光情報センター利用者数

35,374人/年
(令和3(2021)年度)

70,000人/年
(令和8(2026)年度)

地域にぎわい事業参加者数

延べ2,606人
(令和3(2021)年度)

事業実績

視点

2

都市の発展を牽引する産業環境

(精査中)

現状値

目標値

製造品出荷額

<引用計画> 第2期大田区まち・ひと・しごと創生総合戦略

「工業」「商業」をはじめとする多様な区内産業の持続的発展を目指す。

4,424億円/年
(令和元(2019)年度)

5,000億円以上/年
(令和8(2026)年度)

大田区内従業者数

<引用計画> 第2期大田区まち・ひと・しごと創生総合戦略

349,551人
(平成28(2016)年度)

360,000人
(令和8(2026)年度)

目標値について：製造品出荷額 過去の推移及び区の出組に伴い見込む成果を踏まえて設定した目標
大田区内従業者数 産業集積の持続的な維持・発展を念頭に、平成26年の値(359,410人)を目指して設定した目標

過去20年間で大田区工場アパート立地助成事業 を活用し整備した工場アパートのユニット数

39件
(令和3(2021)年度)

200件
(令和24(2042)年度時点)

立地助成事業の認定件数

(ものづくり工場立地助成、工場アパート立地助成、ものづくり企業立地継続補助金、研究開発企業等整備助成)

42件/年
(令和3(2021)年度)

40件/年

政策指標

事業実績

視点

3

来街者も円滑に移動できる 交通環境

(精査中)

現状値

目標値

主要駅における年間乗車数

(大森駅、JR蒲田駅、東急蒲田駅、京急蒲田駅)

<引用計画> 第2期大田区まち・ひと・しごと創生総合戦略

「暮らす、働く、訪れる」といった様々な活動によるにぎわいと交流ある都市環境の実現を目指す。

93,618千人/年
(令和2(2020)年度)

108,294千人/年
(令和8(2026)年度)

目標値について：新型コロナウイルス感染症の拡大により減った乗車数は、テレワーク等の普及により従前までは戻らないと仮定して設定した令和8(2026)年度の見込乗車数に対して、区の出組成果として4駅合計で5,500人/日×365日の増となることを目指して設定した目標

【参考指標】 生活環境の満足度「交通の便」

円滑に移動できる交通環境の進展により、様々な人々の交流を促進する。

78.1%
(令和3(2021)年度)

80.0%

目標値について：過去の実績でも常に70%以上であり高い数値となっているが、さらに交通の便に満足する区民の割合を増やすことを目指して設定した目標設定

新空港線の整備(第一期整備)

整備主体の設立
(令和4(2022)年度)

整備完了
(2030年代)

都市計画道路の整備延長

52.87km/94.6%
(令和4(2022)年4月)

55.86km/100%
(令和9(2027)年4月)

中心拠点における交通結節機能の強化

大森
(補助28号線(池上通り)・大森駅西口広場の整備)
都市計画決定・告示
(令和3(2021)年度)

事業認可取得
(令和5(2023)年度時点)

蒲田
(蒲田駅東口・西口中長期整備)
検討
(令和4(2022)年度)

基盤施設整備完了
(2030~2040年代)

テーマAの満足度 <令和4年度区の施策検証等に向けた大田区区民意識調査>

Q. 大田区では、活力、国際性ある都市づくりが進んでいると思いますか？
「そう思う」「ややそう思う」と答えた区民の割合

(精査中)

34.4%

総括 (記載イメージ)

政策指標の現状値は、区内宿泊施設の宿泊者数、主要駅における年間乗車数などにおいて、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、目標を下回るものがあります。

一方で、事業実績では、新空港線の整備主体の設立や大森駅西口広場の計画決定など、着実に事業が進展しています。



B 地域力を育む 暮らしやすい場の 提供

めざす姿

暮らしに必要な様々な機能を備え、職住が近接した、ウォーカブルな地域づくりが進んでいます。暮らしやすさや都市の景観をさらに磨き上げることにより、高齢者や子ども、障がい者、外国人など、すべての人々がライフスタイルや価値観の多様化に応じて、住み、働き、憩う場を選択できる都市となっています。

視点

4

多様なライフスタイルに対応できる良好な住環境

(精査中)

現状値

目標値

「ユニバーサルデザイン」の考え方を理解している人の割合

<引用計画> 大田区ユニバーサルデザインのまちづくり基本方針
アクションプランVer.2

UDの考え方の浸透と誰もが安心して快適にすごせるまちの実現を目指す。

18.6%
(平成29(2017)年度)

25%
(令和5(2023)年度)

目標値について：現状値を踏まえ、令和5(2023)年度までに達成を目指して設定した目標

成人の週1回以上のスポーツ実施率

<引用計画> 大田区スポーツ推進計画(平成30年改定版)

区民の健康の維持増進を目指す。

64.6%
(令和3(2021)年度)

65%
(令和6(2024)年度)

目標値について：国の目標値(第2期スポーツ基本計画)と同じ水準を目指して設定した目標(実績値を踏まえ、次期計画改定の際に見直し予定です。)

【参考指標】

若い世代における定住意向
(10・20～30代)

<引用計画> 第2期大田区まち・ひと・しごと創生総合戦略

子育て世帯に選ばれるまちの実現とまちの活性化や活力ある地域の維持

74.5%
(令和3(2021)年度)

80.9%
(令和8(2026)年度)

目標値について：平成26(2014)～令和3(2021)年度までの間の最大値である平成27(2015)年度の78.6%を達成したうえで、過去の推移と区の取組成果による数値の上昇を見込んで設定した目標

知ることからはじまるユニバーサルデザインのまちづくり「心のバリアフリーハンドブック」の配布実績

8,700部程度
(令和4(2022)年度)

継続的に実施

バリアフリー特定事業の進捗率

<引用計画> 大田区バリアフリー基本構想おた街なが「すいすい」プラン

蒲田駅周辺地区
88.7%
(令和2(2020)年度まで)

大森駅周辺地区
93.0%
(令和2(2020)年度まで)

さぼーとびあ周辺地区
94.1%
(令和2(2020)年度まで)

区民スポーツまつりの参加者数

8,437人
(令和4(2022)年度)

10,000人
(令和6(2024)年度)

公園の運動施設の稼働率

58.6%
(令和3(2021)年度)

防災塾の開講

2地区/年
(令和3(2021)年度)

2地区/年

政策指標

事業実績

視点

5

様々な移動手段を選べる地域交通

(精査中)

現状値

目標値

交通事故発生件数

<引用計画> 第11次大田区交通安全計画

より安全で快適な社会の実現を目指す。

1,400件
(令和3(2021)年)

1,100件以下
(令和7(2025)年)

目標値について：第10次交通安全計画期間の交通事故減少率を維持して算出した目標

【参考指標】【再掲】
生活環境の満足度「交通の便」

円滑に移動できる交通環境の進展により、様々な人々の交流を促進する。

78.1%
(令和3(2021)年度)

80.0%

目標値について：過去の実績でも常に70%以上であり高い数値となっているが、さらに交通の便に満足する区民の割合を増やすことを目指して設定した目標

【再掲】

都市計画道路の整備延長

52.87km/94.6%
(令和4(2022)年4月)

55.86km/100%
(令和9(2027)年4月)

ホームドア・ホーム柵の設置駅
(一部設置含む)

34駅/43駅
(令和3(2021)年度末)

43駅/43駅

政策指標

事業実績

テーマBの満足度 <令和4年度区の施策検証等に向けた大田区区民意識調査>

Q. 大田区では、暮らしやすい都市づくりが進んでいると思いますか？
「そう思う」「ややそう思う」と答えた区民の割合

51.7% (精査中)

総括 (記載イメージ)

政策指標の現状値は、ユニバーサルデザインの考え方を理解している人の割合や交通事故発生件数など、目標値との乖離があるものがあります。一方で、事業実績では、バリアフリー特定事業やホームドア・ホーム柵の設置なども進んでおり、暮らしやすい場の提供につながるまちづくりが着実に進んでいます。



首都直下地震や気候変動の影響により激甚化する風水害に加え、感染症等の新たなリスクへの対応や、快適で安心な日常生活を送ることができる都市環境整備により、安全・安心な都市として多くの人を惹きつけています。

視点

6

強靱で回復しやすい減災都市

政策指標

事業実績

(精査中)

現状値

目標値

住宅の耐震化率

<引用計画> 大田区耐震改修促進計画

目標値について：耐震性が不十分な住宅を概ね解消することで地震被害を大幅に減らすとして設定した目標

地震による建物倒壊の防止を目指す。

91.7%
(令和3(2021)年度)

概ね解消
(令和7(2025)年度)

重点整備地域における不燃領域率

<引用計画> 東京都防災都市づくり推進計画

最終目標値：70%

目標値について：不燃領域率が70%に達することで延焼による建物焼失率が概ね0%になるものとして設定した目標

市街地の延焼被害の防止を目指す。

大森中地区
62.3%
(令和2(2020)年度)

大森中地区
69.9%
(令和7(2025)年度時点)

羽田二・三・六丁目地区
44.3%
(令和2(2020)年度)

羽田二・三・六丁目地区
51.8%
(令和7(2025)年度時点)

整備地域における延焼遮断帯の形成率
(都市計画道路の整備に関する事項は除く)

<引用計画> 東京都防災都市づくり推進計画

目標値について：都市計画道路の整備と沿道の不燃化・耐震化が進み延焼遮断帯が形成されることで、震災時の延焼遮断機能に加え、避難経路、輸送ネットワークなどが確保された安全なまちが形成されるとして設定した目標

延焼遮断、輸送ネットワークの確保を目指す。

大森中地域
73.7%
(令和2(2020)年度)

75%
(令和12(2030)年度時点)

西蒲田地域
37.7%
(令和2(2020)年度)

耐震改修・除却助成件数

267件/年
(令和3(2021)年度)

291件/年
(令和5(2023)年度)

都市防災不燃化促進事業の助成件数

18件/年
(令和3(2021)年度)

5件/年
(令和5(2023)年度)

不燃化特区助成件数

26件/年
(令和3(2021)年度)

30件/年
(令和5(2023)年度)

【再掲】都市計画道路の整備延長

52.87km/94.6%
(令和4(2022)年4月)

55.86km/100%
(令和9(2027)年4月)

目標値について：新おた重点プログラムの年度別計画から引用・算出した目標値

テーマCの満足度 <令和4年度区の施策検証等に向けた大田区区民意識調査>

(精査中)

Q. 大田区では、安全・安心な都市づくりが進んでいると思いますか？
「そう思う」「ややそう思う」と答えた区民の割合

44.7%

総括 (記載イメージ)

政策指標の現状値は、不燃領域率や延焼遮断帯の形成率など、目標値に近づきつつある地域がある一方、ハザードマップを確認した区民の割合など、目標値との乖離があるものもあります。

事業実績では、各種の建築助成が一定件数あるほか、防災塾などのソフト施策も継続的に実施しており、安全・安心な生活の実現に向けた取組を進めています。

視点

7

様々な活動に支えられた安全・安心な都市

政策指標

事業実績

(精査中)

現状値

目標値

ハザードマップを確認した区民の割合

<引用計画> 大田区国土強靱化地域計画

目標値について：マイ・タイムライン講習会等の普及啓発活動による増加を見込んで設定した目標

地域の災害リスクについての理解の深度化、家庭や地域内の防災意識の向上を目指す。

46.7%
(令和3(2021)年度)

70.0%
(令和8(2026)年度)

防災アプリの登録者数

<引用計画> 大田区国土強靱化地域計画

目標値について：「東京都防災アプリ」の年間ダウンロード数増加率を参考として設定した目標

震災、風水害、土砂災害等に関するハザード情報の迅速な取得を目指す。

34,222人
(令和4(2022)年12月1日)

65,000人
(令和8(2026)年度)

中小企業におけるBCP策定率

目標値について：令和12(2030)年度までに40%の策定率を目指すに当たり、過去2回の「中小企業の景況」特別調査における調査結果(策定率)を基に設定した目標

災害の発生など、非常事態が発生した際の区内企業の迅速な復旧を目指す。

22.4%
(令和4(2022)年度)

30.0%
(令和8(2026)年度)

【再掲】防災塾の開講

2地区/年
(令和3(2021)年度)

2地区/年

防犯灯(私道)のLED設置(基)数/整備率

3,409基/45.1%
(令和4(2022)年度)

7,544基/100%
(令和7(2025)年度)

区HP「大田区簡易版BCPシート」における各シート等のダウンロード件数

4,700件/年
(令和4(2022)年度)

5,330件/年
(令和8(2026)年度)

視点

8

オープンスペースを活かした防災都市

政策指標

事業実績

(精査中)

現状値

目標値

暮らしを支える身近な公園の充足度

<引用計画> 大田区緑の基本計画グリーンプランおた

目標値について：区内全域において、自宅から250m以内に1か所以上の公園が確保されることを目指して設定した目標

雨水浸透機能の拡充による水害発生リスクの低減や、延焼防止空間の確保による災害に強いまちの形成、安全な一時避難場所や避難路の確保を目指す。

97%
(令和2(2020)年)

100%
(令和12(2030)年)

区立公園の数

546件
(令和4(2022)年4月)

民間誘導による公園・広場の整備件数

8件/年
(令和3(2021)年度)



都市づくりのテーマ

D 地球に優しい環境の創出

めざす姿

豊かな水と緑などさまざまな表情を見せる大田区らしい景色が持続可能となるよう、環境に配慮した都市づくりが進んでいます。

視点

9

水と緑のネットワークによる安らぎのある都市

政策指標

事業実績

緑被率

<引用計画> 大田区緑の基本計画グリーンプランおおた

(精査中)

現状値

目標値

緑あふれる憩いの場所の創出、こころ豊かに住み続けられるまちの実現を目指す。

18.32%
(平成30(2018)年)

21.5%
(令和12(2030)年時点)

目標値について：大田区緑の基本計画グリーンプランおおた(平成23(2011年))の目標年次である20年後の公園緑地の整備量及び開発指導の緑化実績を見据えて設定した目標

【参考指標】
「緑の多さに満足している」と答えた区民の割合

<引用計画> 大田区緑の基本計画グリーンプランおおた

みどりのまちづくりの進展を目指す。

62.1%
(令和3(2021)年)

70%
(令和12(2030)年)

目標値について：平成20(2008)年度から令和3(2021)年度は7.7%上昇しており、令和12(2030)年度に向けた継続的な上昇を踏まえて設定した目標

保護樹木・保護緑地の指定状況

1,162件
(令和3(2021)年度)

1,200件
(令和8(2026)年度時点)

散策路の整備延長

22,435m
(令和4(2022)年度)

視点

10

持続可能な社会の基盤となる脱炭素化が進む都市

政策指標

事業実績

大田区の温室効果ガス排出量

<引用計画> (仮称) 大田区脱炭素戦略

基準値：3,455千t-CO₂(平成25(2013)年度)
最終目標値：実質ゼロにまで削減(2050年度)

(精査中)

現状値

目標値

地球温暖化のスピードの抑制や気候変動の影響による自然災害や健康被害、生態系破壊等の防止を目指す。

3,023千t-CO₂
(令和元(2019)年度)

1,756千t-CO₂以下
(令和12(2030)年度)

目標値について：令和4(2022)年度末に策定する(仮称)大田区脱炭素戦略による試算値(将来推計と国の計画を踏まえた対策等による削減見込量を積算したもの)を設定した目標(2030年度の目標達成に向けては、既存事業のほか、今後脱炭素戦略等に基づく多様な取組を進めています。事業については状況等に応じて見直しを行います。)

公共施設における太陽光発電設備の導入数

26件
(令和4(2022)年度)

40件
(令和14(2032)年度時点)

低炭素建築物の認定件数

125件
(令和3(2021)年度)

庁有車(乗用車)の電動車率

47.7%
(令和3(2021)年度)

100%
(令和12(2030)年度)

テーマDの満足度

(令和4年度区の施策検証等に向けた大田区区民意識調査)

Q. 大田区では、環境に配慮した都市づくりが進んでいると思いますか？
「そう思う」「ややそう思う」と答えた区民の割合

(精査中)
45.2%

総括 (記載イメージ)

政策指標の現状値は、大田区の温室効果ガス排出量2013年度比半減という高い目標値を掲げており、目標値の倍近い排出量となっています。

事業実績では、公共施設における太陽光発電の導入や庁有車の電動車移行など、区が率先して事業を進めています。目標値の達成に向けては新たな事業の構築も含め、脱炭素化に向けた対応が求められています。

各地域の満足度評価

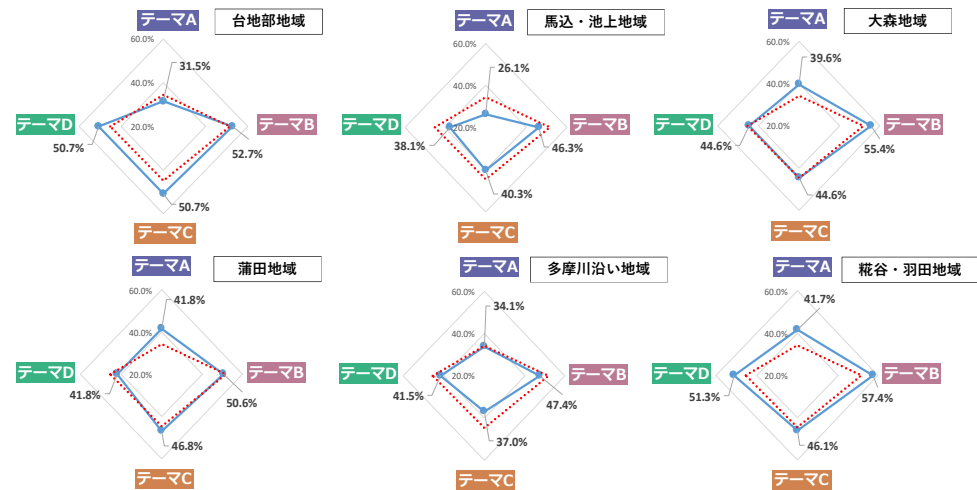
(令和4年度区の施策検証等に向けた大田区区民意識調査)

(記載イメージ)

中心拠点を有する大森地域、蒲田地域、荏谷・羽田地域ではテーマAが高く、緑豊かな住環境を有する台地部地域ではテーマDが高い結果となった。一方で、水害リスクのある多摩川沿い地域では、テーマCの満足度がやや低い結果となるなど、地域特性が現れている。

テーマ	内容	区平均
テーマA	にぎわいと交流を生む国際都市の発展	34.4%
テーマB	地域力を育む暮らしやすい場の提供	51.7%
テーマC	安全・安心な生活の実現	44.7%
テーマD	地球にやさしい環境の創出	45.2%

● 現況値 全体 (精査中)



※空港臨海部地域は、区民意識調査に基づく満足度のデータはありません。

添付資料 2

蒲田駅周辺地区基盤整備方針 <概要>

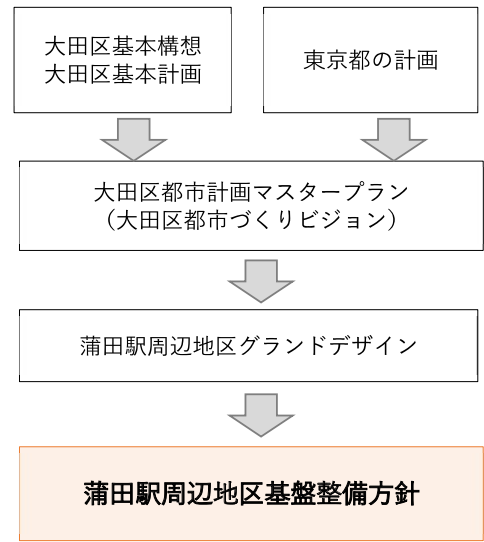
対象とする範囲



基盤整備方針の位置づけ・役割

蒲田駅周辺地区基盤整備方針は、蒲田駅を中心とする地区における公共施設の再編や、駅舎・駅ビル、駅周辺の再開発などを一体的に行うための基盤整備の方針を示すものです。

基盤整備方針策定後は、具体的な施設整備の内容や、その実現化に向けた手順・方策などを検討し、基盤施設整備事業を推進していきます。



基盤施設の整備の方向性

○東西駅前広場

- 東口初動期整備との整合性を図りながら **東口駅前広場を拡張・再整備**し、さらなる交通利便性の向上と、駅とまちの一体性を高める駅前空間を創出する。
- 隣接事業者と連携して **西口駅前広場及び南口周辺の歩行者空間を確保**し、ゆとりある駅前空間を創出する。

○駅舎・駅ビル

- 周辺基盤施設整備と連携した **駅ビルの建て替え等**により、駅前空間を充実させる。



○東西自由通路・連絡通路

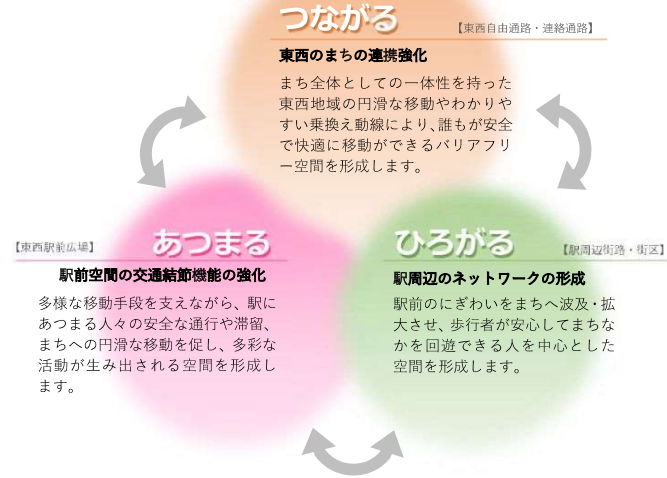
- 駅ビルと連携した **東西自由通路、北側連絡通路を整備**し、東西のまちをシームレスにつなぐバリアフリーな歩行者動線や円滑な乗換え動線を確保する。

○駅周辺街路

- 駅周辺のバス乗降場の駅前広場への集約などにより **道路空間を再編**し、まちなかの回遊性向上と快適な移動環境を創出する。

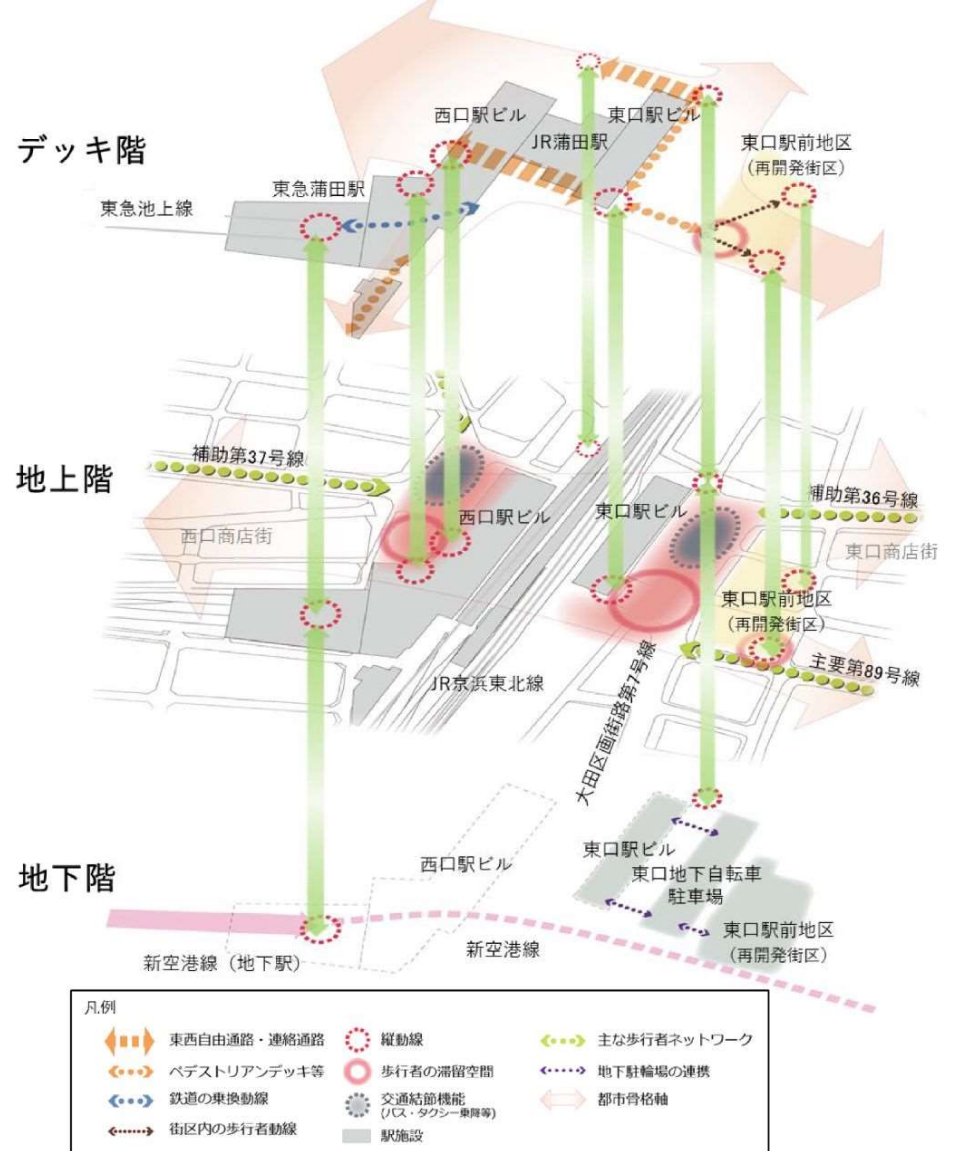
整備に向けた3つの視点と整備イメージ

3つの視点



歩行者動線のイメージ

東西のまちをつなぎ、駅や駅前にあつまる人々や活動をまちへ広げる歩行者ネットワークは、鉄道間の乗換え利用者や、駅からまち、まちから駅へ流れる人々が快適に移動できる歩行環境とし、わかりやすく安全で快適な移動を実現するためには、駅ビルなどの機能更新とあわせて、建物内にも歩行者のための動線や滞留空間などを確保することが重要です。



※今後の各施設整備の検討状況などにより変更の可能性があります。また、各施設の位置や規模などは現時点でのイメージです。

